

第74回国民体育大会の結果を踏まえた競技力向上対策について

1. 大会概要

（1）大会開催期日

令和元年9月28日（土）～10月8日（火）

〔会期前：9月7日（土）、8日（日）、11日（水）～16日（月）〕

（2）滋賀県選手団概要

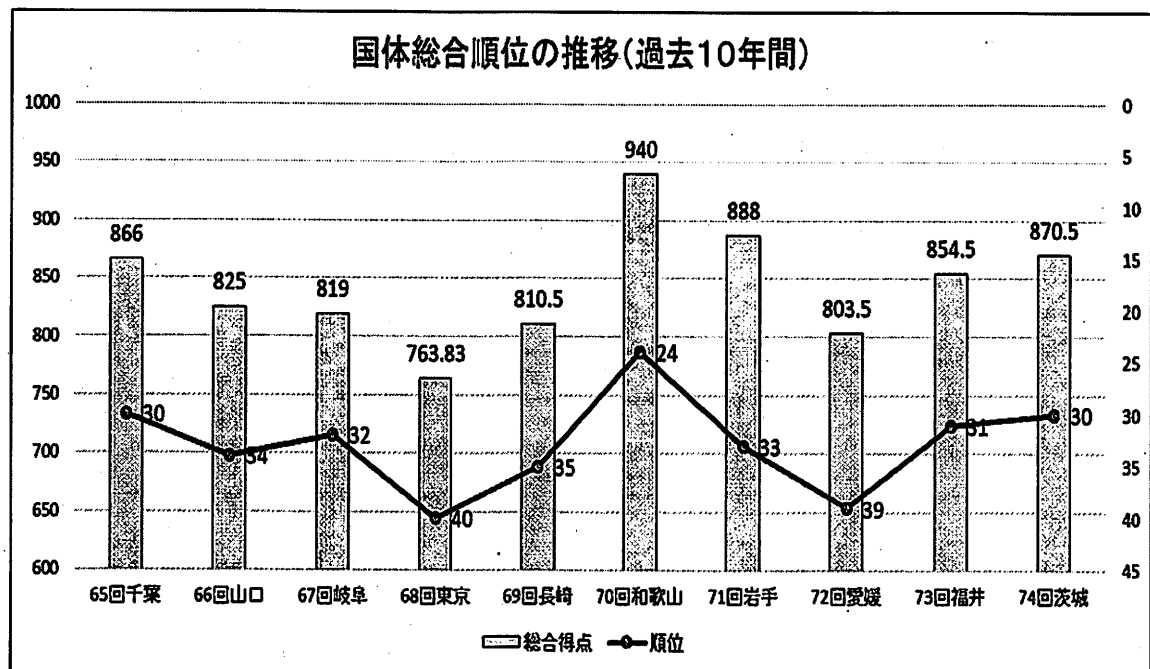
顧問：4名、本部役員：23名（帯同ドクター5名含む）

監督：49名、選手341名 計417名

（3）今大会の成績 ※（）内は平成30年福井国体の成績

男女総合（天皇杯）成績 30位 870.5点（31位 854.5点）

女子総合（皇后杯）成績 28位 518.5点（35位 471.5点）



2. 結果分析

(1) 種別

成年男子は福井国体より入賞数は減ったものの、得点は同程度であった。なお、上位入賞が期待されていたボート競技が天候不良により競技中止となったことは非常に残念な結果であった。成年女子では水泳（競泳）、バレーボール、バスケットボール、ライフル射撃、カヌー競技などの活躍により、入賞数が増加するとともに、大幅に得点が増加した。

少年種別は男女合わせた入賞数に大きな差はなく、各競技で上位入賞が増加し得点を重ねたものの、福井国体で活躍したホッケー競技（男子1位、女子3位）の得点を補うことはできなかった。

種別		得点			入賞数		
		茨城国体	福井国体	前年比	茨城国体	福井国体	前年比
成年	男子	135.5点 (31位)	136.5点 (30位)	▲1.0点	17	23	▲6
	女子	112.5点 (26位)	50.5点 (40位)	+62.0点	12	9	+3
少年	男子	166.5点 (29位)	176.5点 (22位)	▲10.0点	21	18	+3
	女子	56.0点 (32位)	91.0点 (22位)	▲35.0点	7	11	▲4

(2) 得点分類別

1～5倍種目で上位入賞数が増加、特に5倍種目の活躍が合計得点の引き上げに貢献した。

得点分類	上位入賞					下位入賞	入賞数計	合計得点
	1位	2位	3位	4位	小計	5～8位		
1倍種目	7	3	7	7	24	17	41	193.5点
	4	3	6	4	17	29	46	185.5点
3倍種目	2	1		2	5	6	11	129.0点
	1	1			2	7	9	94.5点
5倍種目	1		1		2	2	4	100.0点
					0	3	3	22.5点
8倍種目			1		1	0	1	48.0点
	1		2		3	0	3	152.0点
合 計	10	4	9	9	32	25	57	470.5点
	6	4	8	4	22	39	61	454.5点

※上段は茨城国体、下段は福井国体の入賞数

(3) 競技別

過去に得点をあげてきた、本県の強みとしている競技・種別が茨城国体においてもこれまでどおり活躍し、得点源の役割を果たすとともに、「新たな活躍競技」台頭の兆しも見られた。

過去10年間で7回以上得点をあげた競技

得点合計 213.0点(45%)

競技名	陸上			水泳 (競泳)	バレー ボール	レスリング		ウェイト リフティング	
	成年 男子	少年 男子	少年 女子	少年 男子	成年 女子	成年 男子	少年 男子	成年 男子	少年 男子
入賞回数(回)	9	10	7	9	9	10	9	10	10
茨城国体得点	5.5	3.0	4.0	6.0	40.0	12.0	10.5	18.0	22.0
競技名	馬術	ライフル射撃			カヌー				
	成年 女子	成年 女子	少年 男子	少年 女子	成年 男子	少年 男子	少年 女子		
入賞回数(回)	9	9	8	8	10	9	7		
茨城国体得点	1.0	13.0	3.0	8.0	11.0	43.0	13.0		

過去5年間で3回以上得点をあげた競技

得点合計 182.0点(39%)

競技名	水泳 (競泳)	ボート		ホッケー	スケート (フィギュア)	セーリング	馬術	カヌー	ホッケー	アイス ホッケー
	成年 女子	少年 男子	少年 女子	成年 男子	成年 男子	少年 女子	成年 男子	成年 女子	成年 男子	少年 男子
入賞回数(回)	3	5	3	3	3	3	4	3	3	4
茨城国体得点	16.0	32.0	26.0	48.0	3.0	5.0	6.0	9.0	17.0	20.0

新たな活躍競技

得点合計 75.5点(16%)

競技	種別	茨城国体 獲得得点	備考
バスケットボール	成年女子	27.5点	6年ぶりの入賞(過去最高の3位入賞)
スケート(フィギュア)	成年女子	6.0点	13年ぶりの入賞
	少年男子	3.0点	7年ぶりの入賞
弓道	成年男子	15.0点	遠的 7年ぶりの入賞
	少年男子	3.0点	近的 2年連続入賞
スポーツクライミング	少年男子	21.0点	2年連続入賞

3. 第 75 回国民体育大会に向けた対応

令和 2 年度は「滋賀県競技力向上基本計画」に定める充実期の最終年にあたるが、国体の入賞数と総合得点は相関関係にあり、最終年の目標として掲げる“10 位台進出”を果たすためには入賞数を 80 種目程度確保する必要があると考えられる。

目標の達成に向け、今後以下の点を重点ポイントとして取組を進めてまいりたい。

(1) 重点強化種別・目標の設定

第 75 回国体に向けては、以下のとおり競技毎に具体的な実践目標を掲げ、重点強化種別・種目を定めたうえで強化を図る。

- ・ 茨城国体で入賞があった競技
→ 1 種別（種目）の本国体入賞を追加
- ・ 茨城国体で入賞がなかった競技
→ 1 種別（種目）の本国体入賞
- ・ 本国体に出場できなかった競技
→ 1 種別（種目）の本国体出場

(2) 成年種別の強化に向けた企業等との連携拡充と就職支援制度の充実

茨城国体において獲得得点が増加した成年種別のさらなる強化を図るため、企業・大学・クラブチームに対する支援の充実を図るとともに、今年度立ち上げた「SHIGA アスリートナビ」を活用した選手確保に努める。

(3) 少年種別の年間強化計画の見直しとターゲットエイジの強化

今国体において得点が伸び悩んだ少年種別の強化に向け、競技団体が行う強化事業や、強化拠点校における強化事業の充実を目指し、全国トップレベルの指導者から高いレベルの指導を受ける機会を拡充するなど、指導体制の強化を図る。

併せて、次年度の近畿ブロック大会・本国体に出場が見込まれる選手やチーム体制を早期に立ち上げるよう、年間強化計画の見直しを働きかける。

また、ターゲットエイジに対する強化事業についても拡充を図るとともに、ターゲットエイジの過半数が中学生となることから、県内中学校との連絡を密にし、協力体制の構築を図る。

第 19 回全国障害者スポーツ大会「いきいき茨城ゆめ大会」結果概要について

1. 大会概要

(1) 大会開催期日

令和元年 10 月 12 日 (土) ～10 月 14 日 (月)

(2) 滋賀県選手団概要

本部役員：12 名 (帯同トレーナー 2 名含む)

監督：6 名、コーチ 13 名、選手 29 名 計 60 名

〔選手内訳〕※ () 内は福井大会の実績

陸上競技 : 11 名 (11 名)

卓球 : 6 名 (4 名)

水泳 : 4 名 (3 名)

アーチェリー : 1 名 (1 名)

フライングディスク : 5 名 (5 名)

ボウリング : 2 名 (2 名)

ソフトボール : 0 名 (13 名)

(3) 今大会の成績

台風のため中止

2. 総括

今年度の茨城大会は、大型で非常に強い台風 19 号が接近し、開催 2 日前の 10 月 10 日 14 時すぎに大会の中止が発表された。滋賀県選手団は出発式を終え、すでに現地に向かっていたが、非常に残念ながら競技をすることなく帰県することとなった。

今年度団体競技では、昨年度まで 2 年連続で出場していたソフトボール競技が近畿大会の決勝で敗れて出場とはならなかったものの、バレーボール (知・身) が初めて近畿大会に出場するなどの成果が得られた。